

様式 A 国際コミュニケーション演習（小西／中村）

科目にかかわる情報				
科目の 基本 情報	授業科目 (欧文)	国際コミュニケーション演習 Practice on International Communication		単位 1
	一般・専門の別・ 学習の分野	専門・ 自然科学系共通・基礎	授業形態・学期	演習・通年
	対象学生	専攻科・全学年全専攻	必修・選択の別	選択
	担当教員・所属	小西大二郎・総合理工学科機械システム系 中村重之・総合理工学科電気電子システム系		
科目の 学習・ 教育内 容にか かわる 情報	基礎となる学問分野	英語・工学		
	専攻科学習目標との 関連	本科目は専攻科学習目標「(4)特別研究を自主的、積極的に推進することにより、技術者として必須の問題発見能力と課題解決能力、すなわち創造的な成果を生み出すデザイン能力、研究能力を身につけるとともに、研究結果を学会などで発表し、他の研究者や技術者との交流を通じて、プレゼンテーション能力やコミュニケーション能力を身につける。」に相当する科目である。		
	技術者教育 プログラムとの関連	本科目が主体とする学習・教育到達目標は「(F) コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力の育成、F・3：技術者に必須の外国語である英語でコミュニケーションができること」であるが、付随的には「B・2」にも関与する。		
	授業の概要	本校が関係する国際交流事業に参加し、今まで学習してきた知識や技術をもとに国際的な視野を広げ、英語によるコミュニケーション能力の向上を目指す。		
	学習目的	英語によるコミュニケーション能力を高めるとともに地球上の多様な文化や習慣等への理解を深める。国際的に活躍できる技術者としての自覚を育てる。		
	到達目標	1. 英語で相手の考えを理解し、自分の考えや専門的な知識・技術を分かりやすく説明、伝えることができる。 2. 国際感覚を身に付け、その成果をまとめることができる。		
履修上の注意		本科目は「授業時間外の学習を必修とする科目」である。従って30単位時間の授業（演習）と授業以外に15単位時間の学習が必修となる。これらの学習については担当教員の指示に従うこと。		
履修のアドバイス		平素から異文化や英語についての関心を広げるとともに、本校が関係する国際交流事業に積極的に参加し努力することが大切である。 2年間に亘って履修可能な科目である。		
基礎科目		これまで学んできた科目全般、特に英語		
関連科目		実践英語Ⅰ（専1年）・Ⅱ（専2）、技術英語講読（専1）、特別研究Ⅰ（専1）・Ⅱ（専2）		

授業にかかわる情報				
授業の方法			本校の関わる国際交流事業へ積極的に参加して自己研鑽に努めるとともに，参加後に指定された報告書を提出する。 特別研究の一環として行う国際会議等での発表は，本演習には該当しない。	
授 業 計 画	開講週		授業時間内の学習内容〔項目〕 (指示事項)	授業時間外の学習内容〔項目〕 (指示事項)
	前 期	行事への参加 30 時間以上	● 本校の関わる国際交流事業への参加（発表の機会があれば積極的に行うこと） ● 行事に合計 30 時間以上参加し(複数の行事でも良い)，決められた報告書（レポート）を提出すること(移動時間は演習時間に含めない)。当該事業の参加報告を行った場合には，その発表資料で報告書の演習概要に代えることができる。	● 行事の準備など ● 報告書の作成 (書式は別途指示)
		合 計 30 時間以上		
		教科書，教材等		
	成績評価方法		行事の報告書（レポート）により評価する。評価は「合否」とし，年度末の専攻科運営委員会を経て単位認定を行う。単位認定願の提出が必要である。	
受講上のアドバイス		主として，社会と関わる授業となるので，参加に際しては本校学生としての自覚を持って行動すること。 安全には十分心掛けて行動すること。 本科目の関係する国際交流行事は担当教員に確認すること。		

ルーブリック							
	理想的なレベルの目安（優）		標準的なレベルの目安（良）		未到達レベルの目安（不可）		
評価項目 1	技術者や一般市民など、コミュニケーションの対象者によらず英語で相手を理解した上で、説明の方法を工夫しながら、自分の意見や考え方をわかりやすく伝え、十分な理解を得ることができる。		英語で相手を理解した上で、説明の方法を工夫しながら、自分の意見や考え方を伝え、理解を得ることができる。		英語で効果的な手順・手段を用いて分かりやすく説明できない。		
評価項目 2	文化の違いや価値観の違いを理解し、多面的な見方や考え方ができ、「新しく得た情報」と「過去の知識」とを組み合わせる新しい発想ができる。		文化の違いや価値観の違いを理解し、「新しく得た情報」と「過去の知識」とを関連付けながら考察できる。		「新しく得た情報」と「過去の知識」との関連付けができない。		
評価割合							
	試験	発表	相互評価	自己評価	課題	小テスト	合計
総合評価割合	0	0	0	0	100	0	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	0	0	0	0	100	0	100
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0